

大沼発展会活性化計画

【計画期間 R3年度 ~ R6年度】

1 現状と課題の分析

①地域概況	この地区は、豊田市の東南部に位置している山間地である。豊田市や岡崎市の中心市街地から車で40分程の場所に位置していて、高原や湖が広がる自然豊かな美しい地区である。当地区の人口は、減少傾向となっている。			
②最寄り駅	名鉄豊田市駅	③最寄り駅からの距離	21km	
④商店街区域	豊田市大沼町内			
⑤商店街区域内の商店数	25			
⑥うち組合加入店舗数	16	⑦うち空き店舗数		
⑧商店街の加入店舗構成	生鮮三品(3店18.8%)、衣料品(2店12.5%)、その他小売り(4店25.0%)			
	飲食店(1店6.1%)、サービス(3店18.8%)、その他(3店18.8%)			
⑨商店街の特徴、強み	各店舗は、規模は小さいが地域密着型で、最寄品から買回り品まで多様な店舗が存在する。			
⑩来街者 (主なもの一つに○)	高齢者	○	主婦	ファミリー
	若者		観光客	その他()
⑪来街者交通手段 (主なもの一つに○)	徒歩		自転車	バス
	○ 自家用車		鉄道	その他()
⑫来街者の来街に要する時間 (主なもの一つに○)	○ 15分未満		15分以上30分未満	30分以上1時間未満
	1時間以上			
⑬商店街等が抱える課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の人口減少及び高齢化、店主の高齢化や後継者不足が進み、商店数が減少することが懸念される。 地域人口 2009年：5,347人 2019年：4,419人 2029年：3,631人(推計) <small>下山まちづくりアクションプラン〈中間報告〉より</small> ・時代にあう、あるいは魅力ある品揃えが困難となり商店の魅力が薄れ、客離れが進むことが懸念される。 			
⑭地域住民ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に合った商品の品揃え ・新商品の販売 			

2 商店街の目指す将来像及び目標

①商店街の目指す将来像	地域住民への生活・コミュニティに対応と観光客の取り込みができる商店街を目指します。
②基本目標 (4年後の達成目標数値)	カード会利用金額約10%アップの81万円とする。 令和元年度実績 売上740,000円

3 4カ年の事業計画 ※事業ごとに作成すること

①事業名	大沼こぼっちウォーク事業				
	事業区分	継続	事業開始年度（継続の場合のみ）	平成22年度	
②実施予定時期	令和3年4月～令和7年3月				
③具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大沼商店街周辺の立志弘法、八十八ヶ所弘法等の史跡を廻るウォークラリーを開催する。 ・ウォークラリーの途中数か所で、下山の名物を食べてもらい、ゴール後ビンゴ大会を行う（参加者のみ）。また、特産品の販売を他団体の協力を得て行う。 ・ふれあい広場でのステージショー 				
④必要性・目的	<p>少子高齢化と人口減少への対応が急務である。この問題への対応に、地元商店の生き残りがかかっている。</p>				
⑤ターゲット・コンセプト	<p>ターゲット：大沼地域住民および豊田市、岡崎市民 コンセプト：地域の食と史跡に興味を持たせ、地区内外の住民を商店街へ誘導する。</p>				
⑥事業費・採算性の説明	<p>報償費 50,000円（アルバイト、出演料） 印刷製本費 80,000円（チラシ、ポスター印刷） 広告料 130,000円（DM） 使用料及び賃借料 200,000円（テント等） 保険料 10,000円損害・賠償保険 手数料 10,000円（新聞折込、振込み料） 通信運搬費 10,000円（郵便） 委託費 10,000円（看板製作） 参加者が3,000円の特産品を購入すれば、60万円の売上等の効果が見込める。</p>				
⑦新規取組内容、改善点（先導性、先進性、モデル性等）	<p>下山の名物の手作り体験を他団体の協力を得て、手作り体験をしてもらう。下山の名物に愛着を持ってもらうことにより、下山へのリピーターとなってもらい、商店街の活性化につなげていく。 参加者に、大沼商店街のことについて興味を持ってもらうことにより、商店街へ訪れるきっかけをつくり、商店街への来訪を促す。</p>				
⑧事業効果	<p>参加者に商店街の取扱品を周知することにより新たな顧客を獲得するきっかけにし、個店の売上アップにつなげる。</p>				
⑨目標 評価指標、測定手法	<p>豊田市及び岡崎市の市街地住民へチラシを活用して周知し、参加者200人を目標とする。</p>				
⑩推進体制	<p>商工会内に参画事業者を中心とした商店街活性化委員会を設置し、参加者や関係者のアンケート等を参考に事業推進方法や改善策を検討していく。</p>				
⑪関連計画や事業 (地域の動き等)					
⑫計画期間の事業スケジュール	項目	3年度【1年目】	4年度【2年目】	5年度【3年目】	6年度【4年目】
	事業	4月～事業計画 8月～周知 11月 実施 事業評価・見直し	4月～事業計画 8月～周知 11月 実施 事業評価・見直し	4月～事業計画 8月～周知 11月 実施 事業評価・見直し	4月～事業計画 8月～周知 11月 実施 事業評価・見直し
	予算（千円）	500	500	500	500
	関連計画や事業	大沼こぼっちウォーク	大沼こぼっちウォーク	大沼こぼっちウォーク	大沼こぼっちウォーク
	市補助金の申請見込み	有	有	有	有
	目標達成状況	参加者数180	参加者数190	参加者数200	参加者数200

3 4カ年の事業計画 ※事業ごとに作成すること

①事業名	商店街等施設整備事業(大沼歩道整備事業、環境美化事業)				
	事業区分	新規	事業開始年度(継続の場合のみ)	—	
②実施予定時期	令和 3年 4月 ~ 令和 7年 3月				
③具体的内容	<p>大沼商店街近くの山地一帯は弘法山と呼ばれており、この山のふもとからの山道に沿って大正年代初期に地元や近郷の人々が願主となって造立された大沼八十八か所弘法が祀られている。</p> <p>洞樹院門前の弘法堂を起点とする巡回コースが設けられており、平成22年~23年に山道の歩道整備事業が行われたが、修繕も必要であり、改めて大沼地区のシンボルとなる場所を創り地元住民や観光客を集客し商店街の活性化につなげる。</p>				
④必要性・目的	地域住民に対しては、愛着の醸成、観光客に対しては史跡巡りを通じ、商店街での買い物や特産品の購入など集客につなげるため、史跡整備事業の一つとして実施する。				
⑤ターゲット・コンセプト	<p>ターゲット：大沼地域住民および豊田市、岡崎市民</p> <p>コンセプト：地域の食と史跡に興味を持たせ、地区内外の住民を商店街へ誘導する。</p>				
⑥事業費・採算性の説明	その他(サービス施設)：1,000,000円(500,000円×2年)歩道整備				
⑦新規取組内容、改善点(先導性、先進性、モデル性等)	平成22~23年度事業で行った歩道整備の部分修繕に加え、巡回コースの整備を実施。健康志向の観光客のウォーキングコースとして整備する。				
⑧事業効果	来訪者が商店街を認知することにより新たな顧客を獲得するきっかけとし、個店の売上アップにつなげる。				
⑨目標 評価指標 測定手法	交通量(車両数)：三河湖方面1,500台 豊田市方面1,500台				
⑩推進体制	歩道整備事業：大沼発展会、しもやまSSカード会、下山商工会 環境美化事業：大沼自治区				
⑪関連計画や事業(地域の動き等)	歩道整備と併せて、スタンプラリーを中心とした大沼こぼちちウォークを実施。観光客・地域住民の商店街への誘客を行う。				
⑫計画期間の事業スケジュール	項目	3年度【1年目】	4年度【2年目】	5年度【3年目】	6年度【4年目】
	事業	歩道整備事業	歩道整備事業	環境美化事業	環境美化事業
	予算(千円)	500	500	0	0
	関連計画や事業	大沼こぼちちウォーク	大沼こぼちちウォーク	大沼こぼちちウォーク	大沼こぼちちウォーク
	市補助金の申請見込み	無	無	無	無
	目標達成状況	三河湖方面1,000台 豊田市方面1,000台	三河湖方面1,100台 豊田市方面1,100台	三河湖方面1,300台 豊田市方面1,300台	三河湖方面1,500台 豊田市方面1,500台

4 創業出店促進事業における不足等業種

① 当商店街（商工会）が掲げる不足等業種

- ・ なし

- ・

- ・

② 上記業種を不足等業種として掲げた理由（簡潔に）

③ その他参考情報等